

環境分科委員会のプロジェクト

黄砂を対象とした広域的モニタリング体制の構築（富山県）

1 目的

近年、北東アジア地域における黄砂などの越境大気汚染問題が顕在化しているが、その解決のためには、まずは統一的な手法により環境の実態を広域的に把握することが重要であると考えられる。

本プロジェクトでは、国内外の経済界・学界・自治体がネットワークを構築し、黄砂の実態や影響を把握するための簡易モニタリング（視程調査）を継続して実施するとともに、その結果を今後の効果的な対策の決定・実施に繋げていくことを目的とする。

2 事業内容

(1) 実施時期

2009年4月～2010年3月（調査は黄砂飛来時期の毎年3月～5月に行う。）

(2) 実施場所

日本、中国、韓国、ロシア、モンゴルの希望自治体、企業、学校、学術機関等

(3) 実施方法

ア 調査主体

参加自治体が企業、学校等の協力を得て実施（参加者の確保、調査方法の指導）

イ 調査方法

- ・ 視程調査…参加自治体や学校、企業等が連携して実施
- ・ 肉眼による目標物の視程観測（参加自治体から学校、企業等への調査方法等の指導）

調査地点（屋上などの高い場所）から周囲を見渡して、目印となる目標物（煙突や建物など）を数地点決め、調査地点からの距離を調べておく。
毎日決まった時間に目標物を肉眼で探し、どのくらい遠くの目標物が見えるかを確認する。

ウ 調査結果

- ・ 各自治体が参加者の観測結果を回収し、富山県に提出
- ・ 富山県は結果を取りまとめ、報告書を作成（インターネットでも公開）

(4) 参加自治体（2009年3～5月現在）

5か国 11自治体で実施

日 本（3）：富山県、鳥取県、山形県

中 国（1）：遼寧省※

韓 国（3）：江原道、忠清南道、慶尚南道

ロ シ ア（2）：沿海地方、ハバロフスク地方

モンゴル（2）：中央県、ドルノゴビ県

※ 遼寧省は本県との共同調査研究「環日本海環境協力推進事業」として実施。

(5) 年間計画

2009年3月～5月：調査実施（黄砂飛来期間）

2009年7月：研修会の開催

2009年6月～：視程調査結果の取りまとめ

2010年3月～5月：調査実施（黄砂飛来期間）

(6) その他

ア 年次計画

20年度～22年度の3か年

イ 期待される成果

参加者間の相互理解や情報交換が促進されるとともに、各地域の現状や課題について認識を共有化でき、今後の施策に効果的に活用できる。

効果 ①黄砂の実態や影響を広域的に把握

②調査参加者(学校や企業など)の環境教育(環境保全意識の高揚)

3 2008年度事業結果

(1) 参加自治体

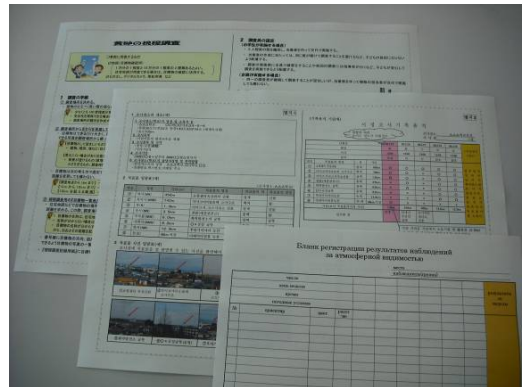
上記のとおり

(2) 実施結果

2008年度においては、統一的なモニタリング手法の立案及び各国自治体へのノウハウの移転を目的として、①調査マニュアルの策定、②富山県から海外自治体への専門家派遣(現地説明及び各種調整)及び、③ホームページの開設(マニュアル公表)を実施するとともに、2009年3月から一斉調査を実施した。



日本の小学校での調査風景



「黄砂の視程調査」マニュアル